発行日：2026 年 10 月 15 日
第 1811005304-2 号

環境情報検証報告書

オリックス不動産投資法人　御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構（以下、「当機構」という。）は、オリックス不動産投資法人の資産運用会社であるオリックス・アセットマネジメント株式会社が作成した「サステナビリティレポート_v1.3」（以下、「算定報告書」という。）に記載された 2025 年度の温室効果ガス（以下、「GHG」という。）排出量、エネルギー消費量、水消費量及び廃棄物発生量が、同社により作成された「サステナビリティレポート手順書」（以下、「算定ルール」という。）に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2025 年度とは 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの期間をいう。検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の GHG 排出量、エネルギー消費量、水消費量及び廃棄物発生量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14064-3」、エネルギー消費量、水消費量及び廃棄物発生量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、Scope1,2 のエネルギー起源 CO_2 排出量および HFCs排出量、Scope3 の GHG 排出量（カテゴリ 1,2,3,5,13）、エネルギー消費量、水消費量並びに廃棄物発生量（無害廃棄物および有害廃棄物）であり、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値は検証対象それぞれの総量における 5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は 2025 年度にオリックス不動産投資法人が所有していた 116 物件とした。

検証手続きにおいては、まず、算定ルール確認のため、統括機能の検証を実施した。Scope1,2,3（カテゴリ 13）、水消費量並びに廃棄物発生量の検証では、サンプリングにより 2 拠点に対し現地検証を実施した。現地検証では、各拠点における算定対象範囲の確認、活動量及び水消費量のモニタリングポイント、廃棄物の排出状況、算定・集計体制の確認を実施した。Scope3（カテゴリ 1,2,3,5）の検証では、算定ルールの確認、算定対象範囲の確認、算定シナリオ及びアロケーションの確認、算定・集計体制の確認及び排出量データについては担当者へのヒアリング、記録の確認、根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点の決定はオリックス・アセットマネジメント株式会社が実施した。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の 2025 年度の GHG 排出量、エネルギー消費量、水消費量及び廃棄物発生量において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任はオリックス・アセットマネジメント株式会社にあり、GHG 排出量、エネルギー消費量、水消費量及び廃棄物発生量の検証の結論に関する責任は当機構にある。オリックス不動産投資法人及びオリックス・アセットマネジメント株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目 25 番地
一般財団法人日本品質保証機構
常務理事　浅田　純男